

## ○クレゾール石ケン液の影響について

※汚染土壌は回収済みですが、回収しなかったと仮定した場合の影響を推定したものです。

### 1 人体への即時的な影響について

- ・汚染土壌は大量に口に入らない限り大丈夫です。
  - \*致死量（推定）に相当する汚染土壌は1度に113kgです。
- ・汚染土壌が皮膚に接触した場合も影響はありません。
  - \*クレゾール石ケン液を撒いた直後の土壌中濃度(0.159%)は通常時の使用濃度(1%)よりも低く影響はありません。
- ・空気中への揮発性に乏しく、また屋外であることから、吸引した場合の影響を考慮する必要はありません。

### 2 土壌での残留（分解）性

- ・酸素が含まれる環境では、微生物によって容易に分解されます。
  - \*分解半減期：最短1時間～29日

### 3 残留による影響

- ・降雨により水路へ流出した場合、大幅に希釈されるため、毒性は著しく低減し、影響はありません。
  - ⇒本件廃棄量が水路に流入した場合、クレゾール石ケン液濃度は0.00005%に希釈されると推計。
    - \*致死量（推定）に相当する汚染水は1度に36万リットルです。
- ・植物は極めて低濃度の汚染土壌においても生長が阻害されます。
  - \*生長阻害に係る半数影響濃度：クレゾール 0.0096%（レタス種子を用いた毒性試験）汚染土壌は時間の経過とともに分解されます。
  - ⇒これらのことから、毒性を有した作物が収穫される可能性は考えられません。なお、今回の場所では作物の栽培は行っていません。